



観月台文化センター入口に設置されたサーマルカメラ

観月台文化センターの利用再開を楽しみに待っていました。どうしても休館中は家に引きこもりがちになっていましたが、サークル活動が再開して健康のためにもよかったです。

また、サーマルカメラの設置などの感染予防対策は安心感があります。今後も感染予防のルールを守って活動していきたいです。



あかしよがサークル
会長 後藤 邦彦さん

町の文化拠点である観月台文化センターも5月20日、全館で再開しました。再開にあたっては、通常の感染予防対策のほかに、センターの正面入口にサーマルカメラを設置し、来場者の体温を測定。37・5℃以上の方には音と光で知らせます。また、図書室でも感染予防や利用者の不安払しょくのため、

返却図書を除菌スプレーや除菌ボックスで除菌しているほか、郵送による貸し出しも行っています。ホール事業など、見合わせているものもあります。観月台文化センターではみなさんに安心して利用してもらうために、『新しい生活様式』の定着へ向けた取り組みを引き続き行っていきます。

安心して利用してもらうために

国見小学校
阿部 淳子 教諭

外国語の授業では「自分の本当の思いを伝える」が学習の重要なポイントなので、フェイスシールドが使えることで大変助かっています。フェイスシールドを使う前は、感染予防のため自分の思いを相手に伝えることは制限しないといけませんでした。使用することで授業中に児童同士で会話ができるようになりました。

子どもたちも最初は戸惑いもありましたが、今では自分の思いを英語で相手に伝えることを楽しみながら授業に取り組んでいます。

6月1日から全面再開した国見小学校と県北中学校ではそれぞれの校舎にぎやかさが戻ってきました。学校では感染予防対策についてさまざまな工夫を凝らしながら、子どもたちが安全・安心して学べる環境づくりの確保に努めています。声を出して学ぶ授業では飛まつ感染を防ぐためフェイスシールドを着用するなど授業内容にあわせた対策を講じています。



フェイスシールドを使った英語の授業風景(国見小6年生)

安心して学べる環境づくりと自分たちでも考えて行動

小学校と中学校でも子どもたちが安心して学べるように、さまざまな感染予防対策を講じています。また、子どもたち自身も自分たちで考え、行動して新しい生活へと前へ進んでいます



オンラインでの生徒総会



県北中学校
生徒会長
齊藤 眞緒さん

オンラインで生徒総会を開催するために生徒会顧問の先生と相談をしながらみんなで考えて準備をしました。カメラに向かって話すので緊張せずにできたのはよかったですが、うまく伝わっていない部分もあったので今後は聞く側も参加できるような形に改善できないか考えていきたいです。

学校が好きで、再開した時はうれしかったです。生徒会長として、まずは自分自身が感染予防対策をしっかりと、周りのお手本になりたいです。

県北中学校では、体育館に全校生徒が集まって行ったいた全校集会や生徒総会などは、密集を避けるためにオンラインで行っています。校内の広い場所で本部役員などの代表生徒がカメラに向かって話し、他の生徒は教室のテレビをとおして参加しました。機器の操作も自分たちで行っています。生徒たちも受け身ではなく、自分たちで考えながら『新しい生活様式』にあわせて学校生活を送っています。

新しいまちづくりの取り組みも『新しい生活様式』にあわせたカタチで行われています。5月24日からスタートした、まちのことを考える「エリアデザインラボ」は、まちづくりをどこにいても学べるオンライン講座です。町内にある学びの施設「アカリ」を運営する家守舎桃ノ音と町が主催するこの講座では、まちづくりについてただ学ぶだけではなく、実践する力を身につけることを目標としています。参加者が毎年アカリで開催している「空想マルシェ」の中で、やりたいことを実現する「実践講座」と、福島で活動するさまざまな職種の人たちの話を聞くことで、多様な価値観を育む「ゲストトーク」の2部構成で行われています。

新しいまちづくりのカタチ

オンラインを活用してさらに前へ

株式会社家守舎桃ノ音
代表取締役
上神田 健太さん



『新しい生活様式』にあわせてウェブを活用したイベントや講座を行うと、今まで遠くで参加できない人が参加できるようになるなどの新しい可能性があります。

今後はオンライン・オフラインそれぞれのメリットを生かし、半分は会場に集まって、残り半分はオンラインなど、両方の良さを生かしたハイブリットな形を模索してイベントや講座などに取り組んでいきたいです。

当たり前前の日常を大切に
みんなで前へ進もう

5月25日に全国に出されていた緊急事態宣言がすべて解除され、福島県では首都圏の1都3県及び北海道との往來の自粛などを6月18日で解除しました。これは安全宣言ではなく、新たな生活へ向けたスタートとなります。町でも公共施設を再開するにあたり、「公共施設における感染拡大予防ガイドライン」を策定しました。安全・安心な日常を取り戻していくためにも、感染の第2波、第3波に備えた感染予防対策の継続が重要になってきます。今後、社会・経済活動のレベルが段階的に引き上げられていく中で、感染のリスクをゼロにすることは残念ながらできません。完全に新型コロナウイルス感染症が収束していない状況の中、自分のため、みんなのために一人ひとりが『新しい生活様式』を実践し、未来へ向けて一歩ずつ前へ進みましょう。